

## 沖縄県公安委員会定例会会議録（令和８年６月18日）

### 1 主な報告等

#### (1) 公文書管理の見直しに向けた取組について

警察本部から「本年４月１日、沖縄県公文書管理条例が施行された。これにより公文書ファイル管理簿の公表や公文書廃棄にあたり公文書管理委員会への意見照会が義務化等されたことに伴い、公文書管理のあり方や新たなルールを組織全体に浸透させること、公文書事故防止に資する仕組みを構築すること等を目的としてプロジェクトチームを設置した。同プロジェクトチームは、各所属に対する巡回指導、文書管理システムの一部改修及びリプレイスに向けた調整等を行っていく。」旨説明があった。

公安委員から「公文書管理委員会は県警にも設置されるのか。」旨発言があり、警察本部から「公文書管理委員会は県が所管する委員会である。」旨説明があった。

公安委員から「復帰前の文書などは歴史的価値があり、県警についても重大事件にかかる文書等は、今後数十年を振り返る、その時代の歴史的資料となる。」旨発言があった。

公安委員から「県警では、文書管理をデジタル化していくのか。」旨発言があり、警察本部から「将来的にはデジタル化されていくと思われるが、現状では、県民からの申請書類や他機関への照会文書等については、紙文書として管理することとなる。」旨説明があった。

#### (2) 支援システムと人材育成による高度な通信指令体制の確立について

警察本部から「県警では、110番情報管理及び緊急配備指揮システムや地図情報システム等の支援システムを活用した初動対応を行っている。４月13日に那覇市久茂地で発生した持凶器銀行強盗事件や８月10日に那覇市安謝で発生したひき逃げ事件では、逃走シミュレーション機能等を活用して被疑者を検挙している。また、５月27日、28日に警察本部８階講堂にて、警察庁指定広域技能指導官の神奈川県警察本部地域部通信指令課小森警部による実践指導を行い、受講者から「先入観を排除して常に最悪を想定した受理や指令が大切だと感じた。」等の反響があった。」旨説明があった。

公安委員から「支援システムは素晴らしいと思うが、全国共通のシステムなのか。」旨発言があり、警察本部から「支援システムは各県独自の情報が利用される等、全国共通ではない。当県の支援システムは全国でも先進的なものであり、各県から視察を受けたこともある。」旨説明があった。

公安委員から「警察活動は支援システムなどに支えられており、事件事故の早期解決に繋がっているのだなと感じた。」旨発言があった。

#### (3) 現場鑑識活動の実施状況について

警察本部から「過去５年の犯罪現場における鑑識臨場件数は3000件前後で推移しており、そのうち割出確認件数（現場から採取した指掌紋が前歴者と一致した件数）は令和７年は322件であり、鑑識活動は公判維持に欠かせないものである。

令和７年10月、那覇市字与儀の路上において発生した恐喝事件では、現場に遺留

されたスナック菓子の鑑識活動を実施し、採取した指掌紋から被疑者を浮上させ、被疑者の特定・検挙に結びついた好事例があった。」旨説明があった。

公安委員から「鑑識官になるにはキャリア・資格が必要なのか」旨発言があり、警察本部から「鑑識専科の中で鑑識上級試験に合格した者や鑑識代行員として実績を残した者等を登用している。」旨説明があった。

(4) その他

警察本部から「公文書の管理については個別のルールがあり、幹部は部下任せにしてはならないということを徹底してまいりたい。また、警察が扱う文書は、個人情報が含まれるものが多いことから、個人情報が含まれる文書の紛失等は、県警に対する県民の信頼を失墜させかねないということを職員に理解させていきたい。」旨発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について（2件）
- ・ 警察構造改革について
- ・ 審査請求の受付について

(2) 生安部

- ・ 公安委員会宛て苦情の調査結果について（2件）
- ・ 鉄砲に係る行政処分について
- ・ 警備業法施行細則の一部改正等について

(3) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について
- ・ 自動車学校の行政処分について（3件）